国立国語研究所学術情報リポジトリ

国語研の窓 第24号 (2005年7月1日発行)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001937

国語研の窓 24号

平成17年７月１日　第24号　発行　独立行政法人国立国語研究所
Independent Administrative Institution: The National Institute for Japanese Language

編集　国立国語研究所普及広報委員会
「国語研の窓」部会
〒190-8561 東京都立川市緑町3591-2
電話 042-540-4300　FAX 042-540-4334
URL http://www.kokken.go.jp/

中 庭 の 緑

もくじ

所長就任のごあいさつ　1
研究室から：日本語情報資料館　2
解説：全文検索システム『ひまわり』　4
第25回「ことば」フォーラム報告　5
ことばＱ＆Ａ　6
国立国語研究所の見学について　6
新刊　6
コラム　7
お知らせ：「ことば」フォーラム　8

所長就任のごあいさつ

杉戸清樹（すぎ と せい じゅ）

本年４月１日，甲斐睦朗前所長のあとを引き継ぎ，国立国語研究所長の任に就きました。これまでちょうど30年間，本研究所に在籍し，かつての言語行動研究部や現在の日本語教育部門で研究に携わってきた者です。

国立国語研究所が立川市の新庁舎に移転して，すでに５か月たちました。その間に年度も改まりました。研究所員一同，新しい環境に感謝の思いを抱きつつ，それぞれの職責を果たすために気を引き締めて新年度の仕事を進めております。

そのような時期に所長の責務を担い始めました。私の務めは，端的に申し上げれば，「言語生活」研究という国立国語研究所の大黒柱を，立川の新庁舎に移し，きちんと据え付けることだと考えています。「言語生活」研究，つまり，言葉が実際の暮らしの中で使われる姿を科学的な目で見つめること，それを土台にして，日本語で暮らす すべての人々の言葉の暮らしに役立てていただける成果を挙げることが，研究所の任務の中心です。

現在，日本社会では国際化や高度情報化が一段と進んでいます。日本語による言語生活はますます多様な姿を見せています。日本語の将来像を考えるために，様々な人々の様々な言語生活の姿をきちんととらえることが欠かせません。

確実な調査研究とその成果を踏まえて，日本語による言語生活の「一歩先」を照らし出し，あるべき将来像を考える確かなよりどころを示すこと。この任務を最善の努力で担うことを通じて，研究所は，世界で唯一の専門研究機関として，日本語による言語生活に関する調査研究の中核・拠点の役割を果たしたいと強く願います。

所長の任に就いた者として，研究所の役割と責務を改めて以上のように確かめ，仕事を始めております。所員ともども，これまで以上に御支援と御指導をいただきますようお願い申し上げます。

研究室から

日本語情報資料館

●「日本語情報資料館」

「日本語情報資料館」計画は，国立国語研究所が蓄積してきた日本語・日本語教育に関する各種の情報や資料を電子化し，インターネットを通じて公開するというものです。

計画の概要は次のアドレスを御覧ください。

http://www5.kokken.go.jp/dash4/siryokan_keikaku.html

ここでは，実際にシステムを使ってみようという方のために，日本の方言の分布の模様を示す基本的な資料である『日本言語地図』の地図画像と研究所の研究報告書の電子版を例に，具体的な使い方の実際を簡単に解説したいと思います。

●館内案内

まず，次のアドレスを入力して，「日本語情報資料館」のトップページを表示します。

http://www.kokken.go.jp/siryokan/

次に，トップページ上の「資料館へ入る」をクリックして中に入ったあとは，まず，「館内案内」のページ（図 1）を御覧ください。ここに全体の構成と概要が示されています。また，ここからリンクを張ってあるページには直接入ることもできます。

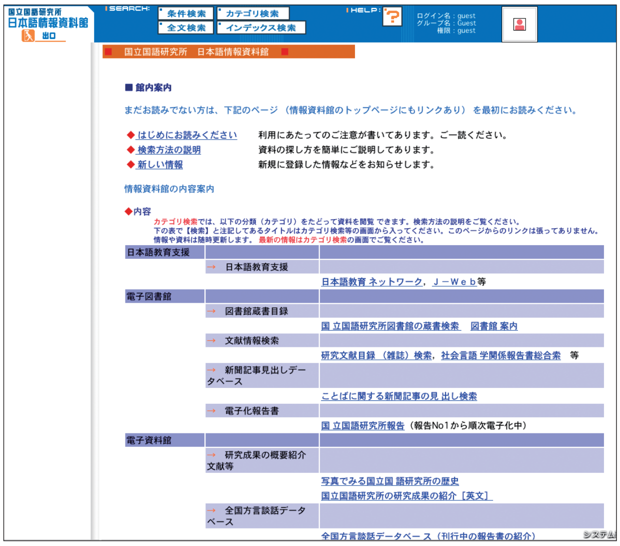


図 1　館内案内の画面

●検索と資料の閲覧

まず，「カテゴリ検索」を使ってみることにしましょう。これは，資料や情報を分類に従って探していく方法です。分類は図 1 の「館内案内」と同じようになっているので，館内案内を見た後で，この検索画面に来ると分かりやすいと思います。画面上部にある検索メニューからカテゴリ検索を選びます。次に，画面の左側に現れたフォルダーをクリックすると開いて中が見えます。文書の形のアイコンをクリックすると該当するものが検索され，結果が表示されます。例えば，「電子資料館」を開き，その中の「日本言語地図」を開くと，「地図」と「解説類」というカテゴリ（文書の形のアイコン）が見え，「地図」をクリックすると図 2 のように該当する地図が検索され，検索結果が表示されるという順です。

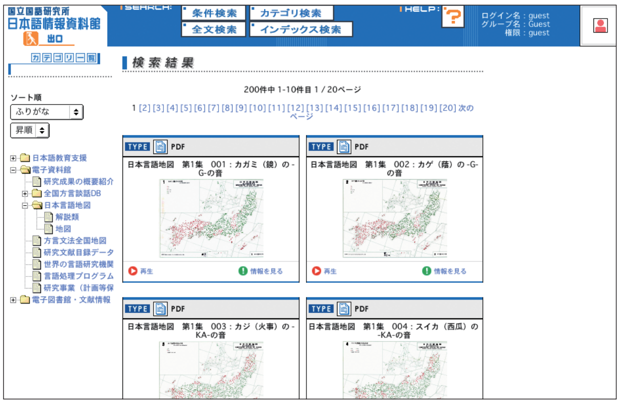


図 2　カテゴリ検索画面

図 2 の検索結果の各地図にある「再生」ボタンをクリックすると地図画像が表示されます（図 3）。画像は PDF 形式ですので，表示サイズなどは Acrobat Reader で調整できます。一方，「情報を見る」ボタンをクリックすると，この資料についての簡略な情報を見ることができます。

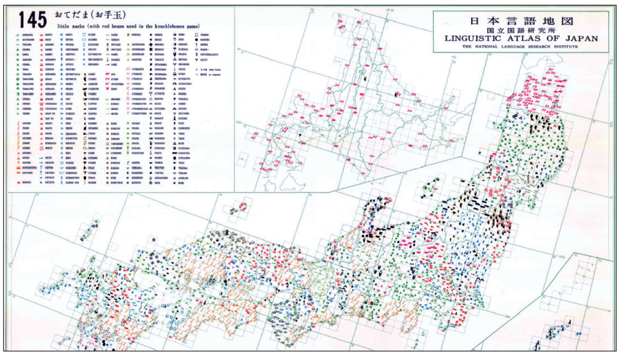


図 3　『日本言語地図』地図画像の例

次に，「条件検索」を使ってみることにします。例えば，「おてだま」という日本言語地図の項目が既に掲載されているのかを検索したいとします。ここでは，簡単に，「ふりがな」で検索することとして，図４のように入力し，「おてだま」という文字列を「ふりがな」に含むものを検索します。「検索開始」ボタンを押すと「おてだま」と「おてだまあそび」（図５）が該当しました。「再生」ボタンをクリックすると，その地図画像が表示されます。

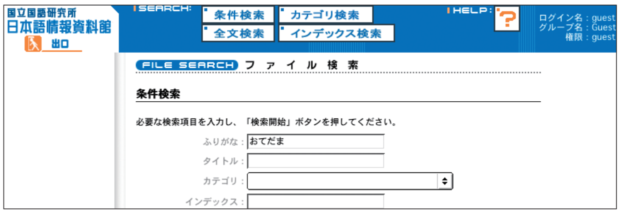


図４　条件検索の画面の一部

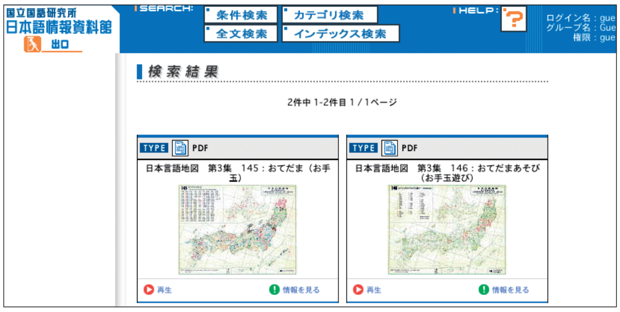


図５　条件検索の結果の画面

●電子化報告書の閲覧

電子化報告書は，研究所の研究報告書を，1950年の第１号『八丈島の言語調査』から順に電子化する作業を続けているものです。

図６　電子化報告書一覧の画面

ここでは，館内案内のページ上の「電子化報告書」，「国立国語研究所報告」のリンクから一覧のページに入ってみることにしましょう。

図６にある（背表紙のアイコン）は各報告書の画像に，（TOCのアイコン）はその報告書の目次のページにリンクしています。図６の TOC のアイコンをクリックすると図７のように目次のページが表示されます。目次の各行の頭にある背表紙のアイコンをクリックすると，その目次の行の本文ページを図８のように開くことができます。この画像も PDF 形式なので，表示の大きさは，Acrobat Reader 側で調整できます。

図７　電子化報告書の目次の画面

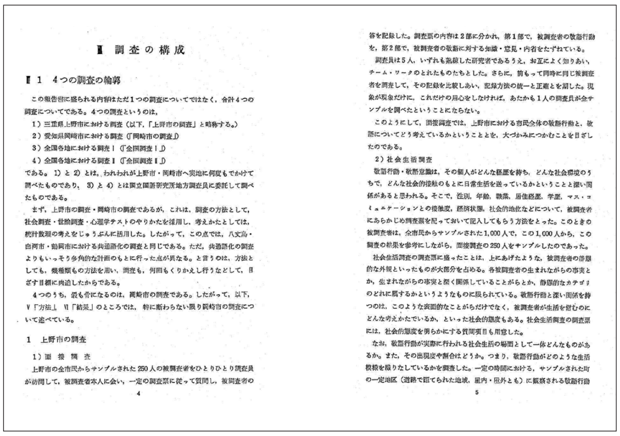


図８　電子化報告書のページの画面

●終了

最後に，左上にある「出口」をクリックすると，資料館のトップページに戻ります。

どうぞ，一度お使いになってみてください。

（熊谷　康雄）

解　　説

全文検索システム『ひまわり』

国語研究所では，言葉に関する，さまざまな資料を電子的なテキストの形で一般に公開しています。例えば，20世紀初頭の総合雑誌『太陽』を収録した『太陽コーパス』や，類義語集である『分類語彙表』などです（「コーパス」とは言語研究用の資料です）。全文検索システム『ひまわり』は，このような言葉に関する資料から，指定された言葉を簡単に検索して，言葉に関する分析をするためのツールです。

『ひまわり』の特徴は，言葉の分析に適した検索機能を持っていることです。図1は，『太陽コーパス』から「國語」を検索した例です。検索結果には「國語」に対する前後文脈が表示されるので，「國語」がどのような文脈で用いられるかがすぐわかります。もっと広い範囲を閲覧する場合は，図1のようにWebブラウザに記事全文を表示することができます。また，コーパスには，言語の分析に役立つようなさまざまな情報が付加されていますが，それらを検索することも可能です。例えば，図1では「雑誌名」「年」「号」「著者」などが付加情報に当たります。このような情報は，年ごとの使用頻度の移り変わりなどを分析するのに役立ちます。

『ひまわり』のもう一つの大きな特徴は，異なった形式の資料でも検索できることです。図2は，「科学」が含まれる見出しを『分類語彙表』から検索した結果です。「表記」欄の左右の欄に，意味的に類似する語が数語表示されます。『分類語彙表』の中で「科学」が属している分類項目「学科・学問」に含まれる語全体もWebブラウザで表示できます。『太陽コーパス』と『分類語彙表』というように，資料の種類や記述方法が大きく異なっても，XML（現在広く用いられている文書記述言語）で記述されている資料であれば，『ひまわり』で検索し，資料に適した形で表示することができます。

『ひまわり』は当研究所のWebページ（http://www.kokken.go.jp/lrc）から無料でダウンロードすることができます。ここで紹介した『太陽コーパス』，『分類語彙表』のサンプル版も『ひまわり』に同梱されています。ぜひ，試してみてください。

（山口　昌也）

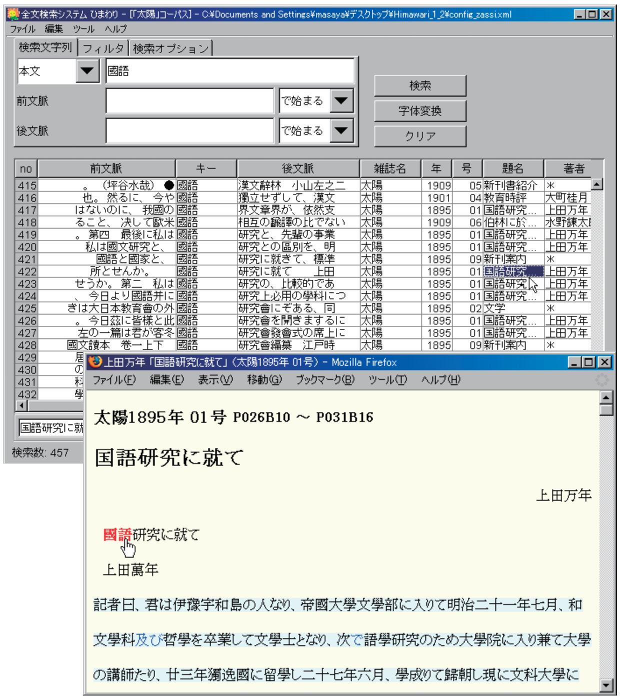


図1　『太陽コーパス』から「國語」を検索した結果

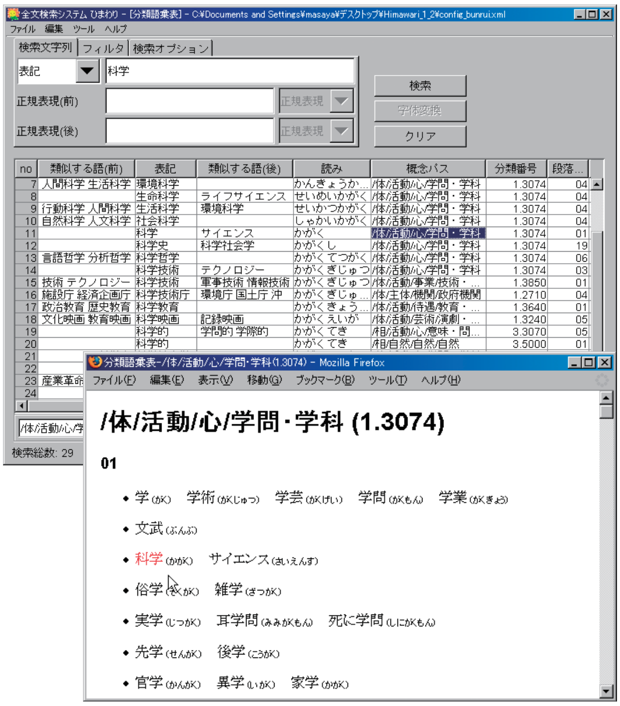


図2　『分類語彙表』から「科学」を検索した結果

「ことば」フォーラム報告

第25回「はじめまして，国語研究所です。――調査・研究の“今”――」ならびに施設公開の報告

■230名が参加

国立国語研究所が立川市に移転して初めての「ことば」フォーラムが，５月14日（土）13時30分から15時30分まで，国立国語研究所立川新庁舎２階講堂で開催されました。参加者は230名でした。

■日本語の現在と将来を考える

フォーラムでは次の３件の講演がありました。

①　４月に新たに所長に就任した杉戸清樹は「国立国語研究所の使命」について，言葉の暮らしを見つめ，その進む先を照らし出し，広く示す，ということを中心にすえて説明をしました。言葉の暮らしをきちんと見つめるために，確実で科学的な方法を持つべきで，言葉の暮らしの「半歩後ろから離れない」という姿勢が大切であると述べました。そして，日本語の将来について，確かなよりどころを持って「一歩先を照らし出す」仕事にも取り組みたいと語りました。

②　前川喜久雄は「『日本語話し言葉コーパス』とその応用」について，日本は「ニホン」か「ニッポン」かなどの具体例を示しながら解説を行いました。『日本語話し言葉コーパス』は，自然な話し言葉を大量に集め，種々の研究用情報を与えたデータベースです。データの量においても，研究用情報の豊富さにおいても現時点で世界最高の話し言葉データベースとなっています。簡単なデモもまじえながら，『日本語話し言葉コーパス』が言語や音声の研究にどのように使われ，どのような知見をもたらすかについて説明をしました。

③　吉岡泰夫は「自治体と住民のコミュニケーションを円滑にする工夫」について，自治体の首長や職員のほかに住民も対象にした全国調査の結果などを紹介しました。自治体と住民が協力して，行政サービスをより良くするには，お互いの「分かりやすい言葉で伝える工夫」や「円滑なコミュニケーションを図る工夫」が大切です。国語研究所では，このような言葉やコミュニケーションの工夫について，住民と自治体の双方を対象にした全国調査を実施しました。その結果をいろいろな図などを使って具体的に示しました。

フォーラムの後半部では，参加者との質疑応答の時間が15分間ほどありました。日本語に対する関心の高さをうかがわせる質問がたくさん寄せられ，講演者が質問への回答と解説を行いました。

■施設の公開も

続いて，15時30分から17時まで，研究所内の施設や研究成果を公開する「施設公開」が行われました。図書館をはじめとする施設のほか，研究員によるパネルを利用した研究活動の紹介がありました。例えば，外来語の言い換え提案についてのパネルの前には，たくさんの人が集まり，研究員と直接交流する場面が見られました。（横山　詔一）

ことばQ&A

質問　外国人の友人から，「先生に『推薦書をお書きください』と言ったら不思議そうな顔をされた。丁寧な言い方をしたのにどうして？」と聞かれました。どう説明すればいいでしょうか。

回答　「お～ください」は「～てください」よりも丁寧な表現です。実際，先生に「こちらで休んでください」と言うのはぞんざいですが，「こちらでお休みください」と言うのは適切です。しかし，同じ「お～ください」でも，先生に「推薦書をお書きください」と言うのは失礼です。これはなぜでしょうか。

「お～ください」には主に二つの使い方があります。一つは，相手の動作を促したり丁寧に誘導したりする気持ちの場合，もう一つは，「お願いですから，どうか」と懇願する気持ちの場合です。

- どうぞこちらでお休みください。［促し］
- 少々お待ちください。［丁重な誘導］
- どうかお許しください。［懇願］

問いの場面は「自分のために推薦書を書いてくれるよう，先生に依頼する」という場面ですが，この場合，先生に懇願しているわけではありません。また，先生のために「どうぞこちらでお休みください」と促すことはあっても，自分のために推薦状を書くよう先生の動作を促したり誘導したりするのは，厚かましい印象を与えます。先生に対して「推薦状をお書きください」と言うと失礼な感じがするのはそのためです。この場合は，「推薦状を書いていただけないでしょうか」，「推薦状を書いていただきたいのですが」という言い方が選ばれることになります。

このように，日本語を母語とする私たちは，日常生活の中で微妙な表現の調整を行い，場面に最もふさわしい表現を選んでいます。日本語を外国語として学ぶ人たちも，日本人とのコミュニケーションを通じて，相手や場面に応じた表現の調整をけっこう身につけていますが，やはり母語ではないので，日本語母語話者にとって違和感のある言い方をしてしまうことはあります。

そのようなときに，時と場合に応じて，さりげなく適切なアドバイスができれば，日本語を母語としない人たちとのコミュニケーションは，より豊かなものになるのではないでしょうか。　（井上　優）

国立国語研究所の見学について

国立国語研究所の活動と研究成果を広く一般の方々に伝えるために，国内外の視察団や修学旅行，総合的学習の一環として見学に訪れる中学生・高校生等を対象に施設案内を行っています。

平成16年度は次の方々が研究所を見学しました。

①	16年４月16日	財団法人日本国際協力センター	１名
②	16年５月12日	富山県新湊市立新湊西部中学校	２名
③	16年６月１日	愛知県新川町立新川中学校	５名
④	16年７月２日	弘前大学	12名
⑤	16年９月１日	皇學館大学	５名
⑥	16年９月17日	東京都大田区立羽田中学校	３名
⑦	16年11月15日	東京都板橋区立志村第一中学校	７名

計７件　35名の見学

見学者の過去の実績

年度	件数	見学者数
13	8	35名
14	8	41名
15	13	60名
16	7	35名

また，本年２月に研究所が立川市に移転したのを機に，研究所の諸活動を紹介する展示室を設置し，年表・説明用パネル・刊行物などの展示を行っています。

新　　刊

1. **日本語教育ブックレット７『話しことば教育における学習項目』**
   2005年３月／B5 判横組み68ページ／税込み500円
   日本語教育ブックレット８『作文教育における日本語教師と大学専門教員との協力のために』
   2005年３月／B5 判横組み48ページ／税込み500円
2. **『日本語科学17』**
   2005年４月／国書刊行会／B5 判横組み144ページ／税込み3,150円

コラム

「全然，満足してます」

「全然，満足してます」

これは，平成13年10月，米大リーグでの一年目のシーズンを終えて帰国した新庄剛志選手（現日本ハム）が，記者会見で一年の感想を聞かれた際のセリフです。このセリフを聞いてこう思った人もいたのではないでしょうか。

「『全然，満足してます』なんていう日本語はない。『全然』はその後に否定が来ないといけないんだから。『全然，満足してません』みたいに……」

確かに，書店に数多く並ぶ「言葉の乱れ」「間違った日本語」を扱った書物の中には，

- 「『全然』は本来否定を伴う副詞である。最近の若い人が『全然面白い』『全然おいしい』などと言うのは間違った言葉遣いである」

のように書いてあるものが少なくありません。学校で国語の時間に，先生からそのように言われた記憶のある人もいることと思います。

さて国語の時間といえば，現在多くの高校用国語教科書の教材となっている芥川龍之介の『羅生門』に，次のような一節があります。

- これを見ると，下人は始めて明白にこの老婆の生死が，全然，自分の意志に支配されてゐるといふことを意識した。

「全然」があるのにその後に否定の表現がありません。これはどういうことでしょう。文豪芥川も，ついうっかり「最近の若い人」並みの「間違った言葉遣い」をしてしまったのでしょうか。

実はそうではないのです。『羅生門』が書かれたのは大正４年ですが，明治から大正，昭和のはじめにかけては，「全然」は〈完全に，100％〉という意味で否定でも肯定でも使われていたのです。例えば児童教育の専門誌『児童研究』には「其行為ト意志トハ，全然健康ニシテ」「全然痛覚ノ正常ナリシコト」（明41）「主観と対象とは全然一つとなりて」（大９）のような，また『東京日日新聞』（のちに『毎日新聞』が吸収）の記事では「全然据置に決定した」（昭３）「全然新たな基準」「全然その趣旨に賛成」「方針は全然同一である」（昭13）といった例があります。芥川と同時代の作家の作品にも珍しくありません。大正の終わりごろから否定を伴う例が多くなってきますが，それが正しい用法だ，と言われるようになるのは戦後になってからです。

『羅生門』の「全然」について，市販の生徒用自習書（いわゆるトラの巻，あるいはアンチョコ……今はどちらも死語？）を見ると，次のように説明しているものがあります。

- 副詞「全然」は，本来，下に打ち消しの語を伴う。
- 下に否定の語を伴うのが普通だが，これは原則を破った用い方。
- 「全然」は下に打ち消しを伴うのが一般的だが，ここでは破格。

これらの記述はいずれも不適切です。「全然」は「本来」打ち消しの語を伴う副詞というわけではありません。そして大正４年の作品に現在の国語の規範をあてはめて，「原則を破った」「破格」などというレッテルを貼(は)るのも正当ではありません。

現在の国語の規範は尊重されるべきでしょう。しかしそれが「本来の」用法かどうかは日本語の歴史の中での実態を調べてみなくてはならず，軽々しく判断はできません。また現在の規範を過去にあてはめることも慎重であるべきなのです。

なお冒頭の新庄選手の発言には後日談があります。翌日のあるスポーツ紙の記事では，「全然，満足してない」と180度逆になっていたのです。恐らくこの記事を書いた記者は，新庄選手の口から「全然」が出た時点で最後は否定が来ると思い込み，このように聞き取ってしまったのでしょう。（新野 直哉）

（平成15年『文教ニュース』1712号掲載の文章をもとにしました）

＊このコーナーは国立国語研究所員が書いた文章を，発行元の許可を得て転載するものです。

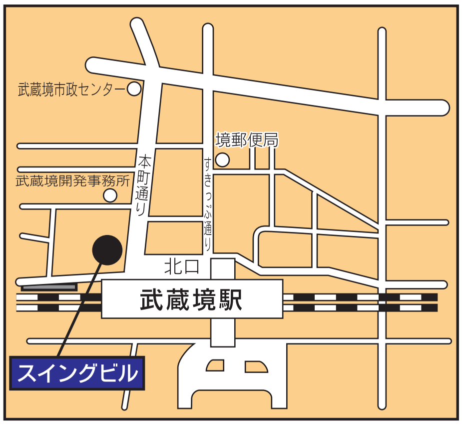
3．**雑誌『太陽』による確立期現代語の研究 ──『太陽コーパス』研究論文集**（国立国語研究所報告122）
2005年３月／博文館新社／A5 判横組み 414ページ／税込み7,875円

4．**太陽コーパス ── 雑誌『太陽』日本語データベース**（国立国語研究所資料集15）
2005年３月／博文館新社／解説書（A5 判横組み56ページ），CD-ROM／税込み9,975円

5．**全国方言談話データベース『日本のふるさとことば集成 ─ 第10巻 富山・石川・福井 ─』**（国立国語研究所資料集13-10）
2005年６月／国書刊行会／冊子（A5 判横組み281ページ），CD，CD-ROM／税込7,140円

第26回「ことば」フォーラム　「ことばと国際理解」

国際理解の促進という観点から，国語，日本語，英語教育の問題を，総合的に考え，国際化に対応した言語（ことば）の教育の在り方について展望します。



共　催：武蔵野市国際交流協会
日　時：2005年７月30日（土）　午後１時30分（１時開場）～４時
場　所：武蔵野スイングビル　レインボーサロン
（ＪＲ武蔵境駅北口　徒歩２～３分）

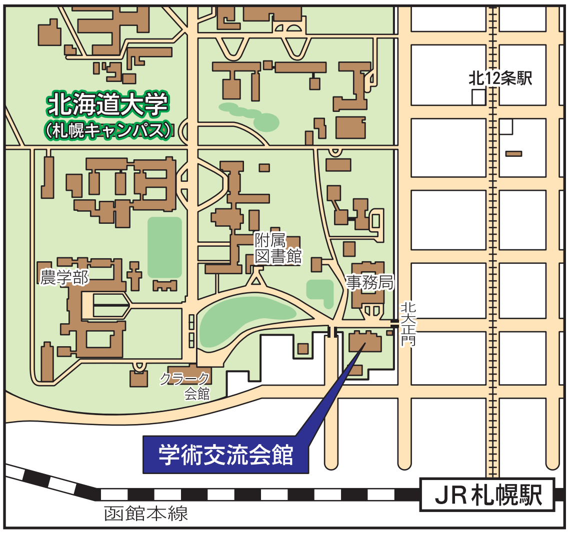
【テーマ】国際理解につながることばの教育

講　師
「国語教育の立場から」　氏原基余司（文化庁国語課）
「日本語教育の立場から」　野山　広　（国立国語研究所 日本語教育部門）
「英語教育の立場から」　松本　茂　（東海大学教育研究所）

コメンテーター
杉戸　清樹（国立国語研究所）
山西　優二（早稲田大学）

第27回「ことば」フォーラム　「伝え合いの言葉」

『新「ことば」シリーズ18「伝え合いの言葉」』（国立国語研究所編集）の内容を踏まえながら，伝え合うことの意味について改めて考えます。



共　催：北海道大学留学生センター
日　時：2005年９月18日（日）
午後１時30分（１時開場）～４時30分
場　所：北海道大学学術交流会館・講堂
（札幌市北区北８条西５丁目）

【テーマ】伝え合うこと（コミュニケーション）の意味

講　師
岡本能里子（東京国際大学）
柳町　智治（北海道大学留学生センター）
熊谷　智子（国立国語研究所）

コメンテーター
小林　ミナ（北海道大学留学生センター）
杉戸　清樹（国立国語研究所）

・手話通訳があります。
・入場は無料です。参加の申し込みをしてください。

【申し込み方法】　氏名・連絡先を下記まで御連絡ください。
国立国語研究所「ことば」フォーラム係
TEL：042-540-4300㈹　FAX：042-540-4456　E-mail：forum@kokken.go.jp

詳しくは，国立国語研究所のホームページ（http://www.kokken.go.jp），ポスター，ちらしを御覧ください。

©2005　国立国語研究所